

自ら学ぶ力を育てる学校図書館

南知多町立内海小学校 谷川 七望

1 はじめに

G I G Aスクール構想により、各学校に一人1台タブレット端末が配付され、校内のネットワーク環境が整えられた。各教科の授業でさまざまな形で活用し、インターネット検索による調べ学習も、自分で行う力がついてきている。しかし、大変多くの情報から必要な物を探す難しさや情報の信頼性には疑問が残る。内容を十分比較・検討することなく個人的な意見を鵜呑みにしてしまっている姿が見られることもある。

一方、図書資料については、その信頼性は高いが、必要な情報を手にする難しさがある。本校は小規模校であるが故に図書館の蔵書も8348冊（令和3年3月現在）と決して多くはなく、しかも購入年が古い本が多い。特に環境問題のように、年々状況も人々の意識も変化している分野については、最新の情報が必要である。そのため、学校の図書館の本で調べるには限界があり、図書資料をどう整えるかが大きな課題である。

確かさを求めて図書資料を活用し、最新の情報はインターネットで優位性を確かめながら得るなど自分で取捨選択する力は、今後ますます必要になると考える。これらを踏まえて、インターネット資料と図書資料それぞれのよさに気付き、目的に応じて必要な資料を選び、その資料を活用して調べたことを基に考えを深めることができる児童の育成を目指して、本実践に取り組んだ。

2 研究の構想

(1) 目指す子ども像

- ・目的に応じて取捨選択した資料を活用し、自分たちの考えを深め、発信できる児童

(2) 研究の仮説

- ・十分な図書資料とICT資料とを併用して利用できる環境を整え、教師が適切な支援を行えば、目的に応じて必要な資料を活用して、自分の考えを深め、発信する力を高めることができるであろう。

(3) 研究の手立て

〈手立て1〉適切な情報収集ができるよう公共図書館や近隣の学校と連携して、さまざまな図書資料を準備する。

〈手立て2〉児童の実態に合わせて、情報収集、活用、発信の仕方を適切に支援する。

3 研究の内容

(1) 単元構成

提案する文章を書く学習で、情報収集の一方法として学校図書館の本を利用して調べるという学習活動を計画した。

6年 国語 具体的な事実や考えをもとに、提案する文章を書こう「わたしたちにできること」
(10時間)

第1次	第1時	資源や環境を大切にするために、自分たちにできることを提案する文章を書くという学習の見通しをもつ。
	第2時	身の回りの環境問題について考え、グループで調べていきたいテーマを決める。
第2次	第3時	提案するテーマが決まったら、問題点を明らかにし、解決策を考えるための資料を図書館の図書資料やタブレット(インターネット)を使って収集する。
	第4・5時	資料を収集したり、グループで具体的な提案内容について話し合ったりする。
	第6時	グループで提案する文章の構成を考え、役割分担をする。
	第7・8時	調べた情報をもとに、分担して下書きを書く。
	第9時	提案する文章を推敲・清書する。
第3次	第10時	提案書を読み合い、感想を交流し、学習を振り返る。

(2) 教師の支援

(ア) 第1・2時

まず、本単元の学習が始まる前に、教室前の掲示板にSDGsや環境問題を扱った書籍を集め、環境コーナー(写真①)を設置した。そうすることで、児童が環境に関する本を手に取りやすくなるとともに、地球環境の問題に興味・関心をもって授業に取り組めると考えた。また、朝の会で、スウェーデンの若き環境活動家グレタ・トゥーンベリさんについての本を紹介したり、道徳科「青い海を取りもどせ」で海洋プラスチック問題に関連する授業を行ったりすることで、児童が環境問題を自分事として捉え、問題意識をもって学習に取り組めるようにした。

第1時では、NHK for School「世界の人々とともに生きる」を視聴し、SDGsについての知識を深めた。その上で、世界を取り巻く環境問題にはどのようなものがあるのか、その問題を解決するために、日本がどのような取り組みを行っているのかを考えた。映像を視聴した後、「環境コーナー」の本の中から、自分が興味をもった本を選んで、世界の環境問題について調べたことを副教材「知多の友」(知多地方教職員会発行)に書き込んだ。(写真②、③)

第2時では、前時に映像や自分が選んだ本から見つけた、身の回りにある環境問題にはどのようなものがあったか、学級全体で意見を出し合った。そして、その中から自分が調べていきたいテーマを決定した。さらに、提案する文章とはどのようなものか、教科書や副教材「知多の友」にある例文を



【写真① 環境コーナー】



【写真② 「環境コーナー」で本を選ぶ児童】

見て見通しをもった後、班ごとでどんなテーマについて調べて提案する文章を書いていきたいかを話し合った。各班からは、次のようなテーマが挙げられた。

- 1班 海洋プラスチックごみについて
- 2班 動植物の絶滅危惧種について
- 3班 ごみについて
- 4班 森林破壊について
- 5班 地球温暖化について

話し合いがうまくいかず、なかなかテーマが決まらない班もあったが、説明文「時計の時間と心の時間」での学習を生かし、具体的な事例を挙げて説明しながら話し合うことで、テーマを一つに絞ることができた。

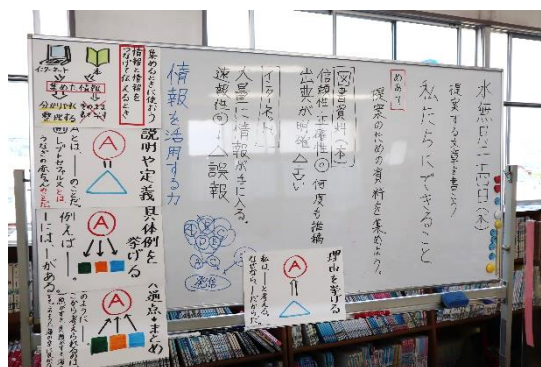


【写真③ 情報を集め、メモを取る児童】

(イ) 第3～5時

第3時から、情報収集の活動を始めた。本校は小規模校であり、図書館も規模は小さい。環境問題について最新の情報を手に入れられるだけの図書資料が十分揃っているとは言えない状況であった。そこで、近隣の南海中学校図書館や、美浜町図書館とも連携し、図書資料を借りることで、充実した学習ができるように工夫した。

情報収集の方法としては、本の他にも、新聞記事やインターネット等がある。そこで、情報収集の活動に入る前に、本の「発行されるまでに時間はかかるが、何度も校正されて情報の正確性・信頼性が高い」という特徴と、インターネットの「速報性があり、最新の情報がすぐに手に入るが、正確性・信頼性に欠けるものもある」というそれぞれの特徴をおさえた。それをふまえて、提案書を書くときには、本とタブレットの両方から得た情報を取捨選択し、活用していくことを伝えた。(写真④)



【写真④ 本とインターネットの特徴】

調べた情報は、副教材「知多の友」に書くか、タブレットの「ドキュメント」に入力し、得た情報と出典とを合わせてメモするよう指導した。しかし、ここである問題に気付いた。児童の様子を見てみると、本やインターネットに書かれた内容をそのまま写している児童が見受けられたのである。そこで、既習の単元である「集めるときに使おう 情報と情報をつなげて伝えるとき」の学習を振り返らせ、情報の整理の仕方について改めて指導した。すると、本当に自分が知りたい内容が書かれているのはどこなのかを考えたり、根拠となるところはどこなのかを探したりしながらメモを取る姿が見られるようになった。(写真⑤)



【写真⑤ 必要な情報を探す児童】

また、ずっと同じ資料だけで情報収集をしている児童も見受けられた。そこで、一緒にそのテーマに関する別の本を探したり、インターネット上に他にも分かりやすいサイトがあるかどうか探したりすることで、さまざまな視点や角度で情報収集ができるような支援を行った。そのような活動を行っていく中で、本を開いてメモを取りながら、その本に出てきた情報をさらに詳しく調べるために、同時にインターネットで調べる児童も現れた。



【写真⑥ 本とインターネットの両方を利用して情報収集する児童】

(写真⑥)

さらに、選択した環境問題について、学校の中での現状を知るために、アンケートを作成して調査しようとする児童も現れた。その際には、情報アドバイザーの方に来ていただき、タブレット (Google フォーム) を使ったアンケート作成の仕方や、結果の見方などを教えていただいた。そうすることで、より詳しく、環境問題に対する校内の現状について知る事ができた。(写真⑦)



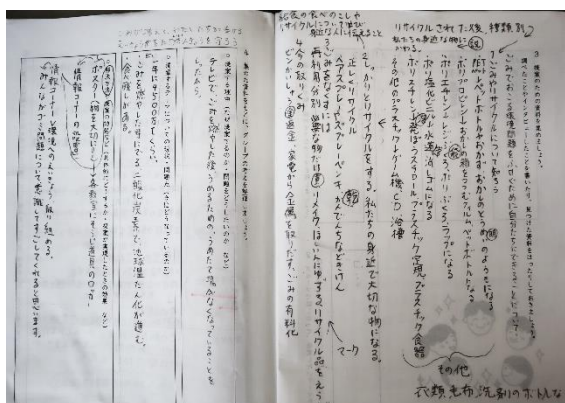
【写真⑦ 情報アドバイザーより、アンケートの作り方を学ぶ児童】

(ウ) 第6～10時

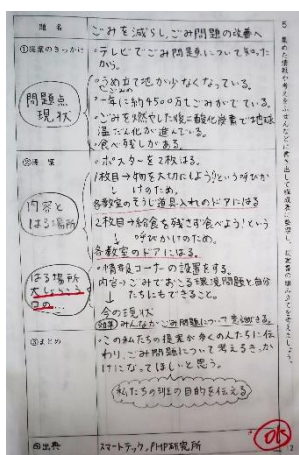
第6時から、収集した情報をもとに、グループごとに提案する文章の構成を考え、提案書を書き始めた。より説得力のある文章になるように、既習の単元である

「集めるときに使おう 情報と情報をつなげて伝えるとき」の学習で学んだ、分かりやすく説得力のある文章にするための「こつ」をいつでも振り返られるようまとめ、黒板に掲示した。文章構成を考えるときには、副教材「知多の友」を活用し、集めた資料から、必要な情報を抜き出し、文章の組み立てを考えた。(写真⑧、⑨) また、必ず出典は明記し、参考にした資料が分かるように指導した。

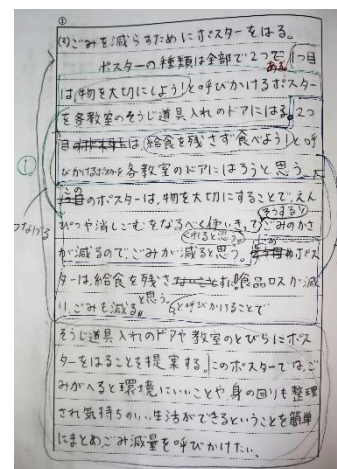
下書きが書けたら、「知多の友」の最後に載っているチェックリストを活用して、班で協力して自分たちの文章を推敲させた。よりよい文章に仕上げた後、担任のチェックを受け、さらに推敲し、本番の用紙に清書をした。(写真⑩)



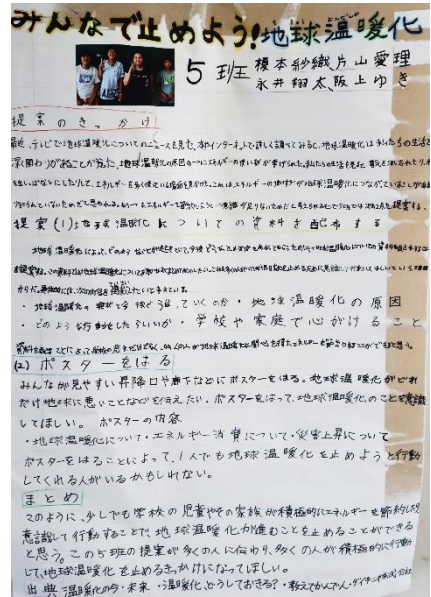
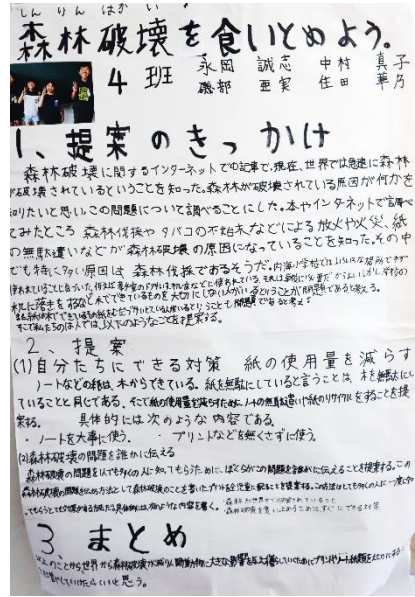
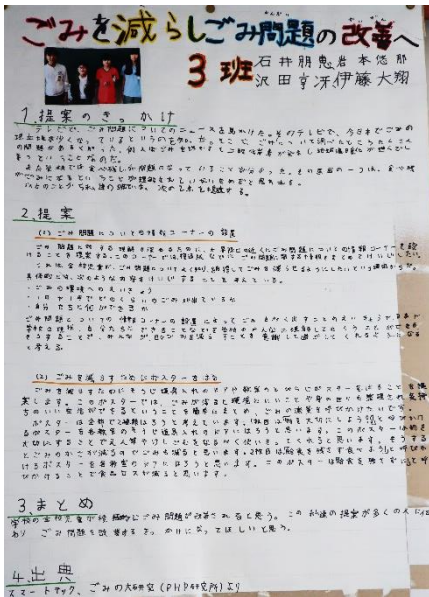
【写真⑧ 児童が書いたメモ】



【写真⑨ 文章の組み立てメモ】



【写真⑩ 下書き】



【写真⑪ 完成した各班の提案する文章】

清書は班のメンバーで協力して一枚の模造紙にまとめた。(写真⑪) 見る人の目にとまりやすいように、見出しを付けたり、特に目立たせたいところには色を塗ったりするなど、工夫が見られた。

また、学習の最後には、完成した提案書の発表会を行い、互いに感想を交流した。(写真⑫) そのときの児童の感想は、次のようである。

- 文章の構成がよく、分かりやすくまとめている。
- 最初の提案のきっかけや提案理由が分かりやすかった。
- 実際にポスターを作っていてよいと思った。
- 解決方法が明確だった。私たちでも簡単に取組みそうだった。
- 海洋プラスチックごみについてよく分かった。
- 文末表現の使い分けがうまく、強調したいところがよく分かった。
- 提案の内容が、だれでも簡単に取組みめるような事でもよいと思った。

作成した提案書は廊下に掲示し、全校の児童へ紹介することで、環境問題への取り組みを啓発するようになった。さらに、実際に取組みそうなる提案に取り組んでみる班も現れた。ポスターを各教室に貼ったり、配付資料を作って掲示したりした班もあった。(写真⑬)



【写真⑫ 提案する文章を発表する児童】



【写真⑬ ポスターを貼る児童】

4 成果と課題

授業後に、6年生40人にアンケートを実施した。「本で調べ学習をすることについて、どのように感じていますか。」という問いに対して、「得意」または「どちらかと言えば得意」と答えた児童の割合は、52.5%だった。

また、「調べ学習をするときに、本で調べるよさは何だと思いますか。(複数回答可)」という問いに対しては、「出典が明確で、情報が信頼できる」と答えた児童が24人、「文や写真があって分かりやすい」と答えた児童が20人、「簡単に情報が手に入る」と答えた児童が12人であった。その他の意見としては、「一つのことについて詳しく書いてある」という意見もあった。

さらに、「本で調べ学習をするときに困ったことは何ですか。(複数回答可)」という問いについては、「本の中から、必要な情報を探ることができない」と答えた児童が20人、「必要な本が図書館のどこにあるか分からない」と答えた児童が17人、その他の意見として、「必要な本があるべき場所がない」、「必要な情報が載っていない」、「情報が古い」という意見もあった。

最後に、「これからの授業で、図書館の本を使ってどんなことをしてみたいですか。」という質問をしたところ、次のような意見があった。

- ・おススメの本の紹介をしたい。
- ・授業で分からないことが出てきたときに探したい。
- ・世界中の問題やSDGsのことなどについて考えたい。
- ・調べ学習をして授業を深めたい。
- ・きちんと目的はもったうえで、いろいろなことを自由に調べたい。
- ・本の人気ランキングを作りたい。
- ・同じことが書いてある本の読み比べをしてみたい。
- ・地球や宇宙に関わることを調べて活用したい。
- ・歴史を調べたい。
- ・料理について調べてみたい。
- ・生物や植物などを調べてまとめる学習をしてみたい。
- ・インターネットより本のほうが正確なので、書いてある情報を参考にしたい。
- ・いろいろな授業に活用したい。
- ・今まで知らなかったことを調べたい。

以上のようなアンケートの結果からも、今回の学習を通して、児童は情報の信頼性の高い図書館の本で調べた情報を活用することで、自分たちが相手に伝えたい提案がより説得力のあるものになるということを実感することができたと考える。実際に、今回の授業を終えた後、多くの児童に図書館を活用して自分の学びを深めてみたいという意欲的な姿勢が見られた。このことから、今回図書館を活用したことは、今後の学習活動を進めていく上でもとても有効であったといえる。

一方で、児童の意見の中に、「本があるべきはずの場所がなく、探せなくて困った。」という意見や、「本に必要な情報が載っていなかった。」という意見があった。タブレット端末が児童個人に貸与される中、より正確な情報を得る手段の確保が急務である。今後は図書館を児童が使いやすいように整備したり、調べ学習に必要な内容の本を一層充実させたりする必要があると感じた。司書教諭を中心に、「学習・情報センター」として活用できるような学校図書館の環境整備をしていくことが今後の課題である。